

学力向上推進地域 研究通信

平成 29 年 7 月 3 日
 (八次中学校区研究推進地域 第 4 号)
 研究推進教員 八次中学校 豊永政男

第 2 回研修会へのご参加ありがとうございました。協議や講話の内容を以下にまとめていますので、共有していただき、全教科・全職員での研究推進をよろしくお祈りします。

授業参観

5, 6 年生を中心に参観しましたが、どの授業でも発問や学習課題の工夫が見られ、児童も意欲的に学習していました。その一部を紹介します。(※吉田先生の講話のコメントも含んでいます。)

(5 年生算数 山根教諭)



- スモールステップによる学習課題の確認
- 図の提示による興味づけ
→題材についての児童とのやりとりの「間」

(5 年生音楽 竹岡教諭)



- 「(今日の演奏をふまえて) 次のパート練習で何をすればよいか」(発問の工夫)
→自分たちの課題として認識できる課題発見解決学習における大切な問い

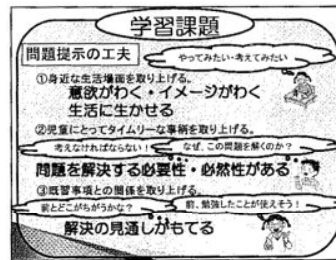
(6 年生社会 末丸教諭)



- 児童が考えたいくなる学習課題の工夫と、ヒントの提示による考える視点の明確化。
- 通過率 30%未満の児童生徒の意欲的参加

研究協議

- ・今年度の授業改善の視点である学習課題や発問について、小中での認識を一致させながら取り組む。



基礎知識	Aはどのようにして求めることができますか？
比較	AとBでは、どのような違いがありますか？
原因	なぜ、〇〇なのでしょう？
行動	〇〇に対して、どうすべきでしょうか？
因果関係	AはBにどのような影響を与えていますか？
発疑	〇〇以外に他に何か方法がありますか？
仮説	もし、〇〇すれば、●●することができますか？
優先順位	〇〇の中で最も●●なのは何か？
総括	Aのような例から、どのようなことがいえますか？

(八次小学校研修資料より)

指導講話 < 広島大学大学院教育学研究科 准教授 吉田成章 >

- ・小学校の授業を参観し、中学校での印象と同様、基礎学力をつけたい教師の思いが読み取れる。
- ・資質能力を決めて授業をするのは理論上可能だが、児童生徒実態や関係性と連動するため、実践的には成立しにくい。

★「間」をとる必要がある。

- ・授業を進めたい指導者の思いと、児童生徒の言葉をどう扱って展開していくかという課題はあるが、児童生徒の生きた言葉、やりとりが必要である。

★他者の「添え手」となれる児童生徒

「添え手」とは、周りの人の支えとなる言動です。支えまていなくても、他の人への関心・積極的なかわりと捉えたと実践しやすいと思います。
 (例)「隣の人は何を書いたかな?」「〇〇くんが言いたいの～ことなんだね。」

- ・「添え手」がしっかりしており、学力の定着が見込める。一方で、他の人に添えている発言が少なく、自分が誰かの「添え手」となることが求められる。
- ・「添え手」となる発言や行動を促す教師の言葉かけも必要である。

(例)「(誤答に対して先生もそう思ったよ)」「他にもそう思った人いるよね」

★価値葛藤の場・選択させる場を設定する。

- ・児童生徒に選択・決定させる場を設定する。
- ・大人が子供に伝えている「よさ」を広げ、間違えること・誤答を積極的に評価する。

【今後の授業に向けて】

- ①価値葛藤・選択できる学習課題の設定
- ②誤答を含む生きた発言・生の声を引き出す発問の工夫と「間」
- ③他者への関心を高め、「添え手」としての関わり合いを設定
+
一言添える教育的働きかけの継続
例：授業外でも積極的・継続的に評価